

はあるが、防疫体制を確立するためにも、すべての情報が県教委事務局に達するような途を講じなければならぬということであった。何故なら、学校における伝染病の流行は、一学校、一地域においてのみ、済まされるものでなく、県下一

## 第五節 社会体育はどのような行事を通じて進め

たか

### 一、社会体育レクリエーションの振興を如何にしたか。

#### 社会体育指導員について

生徒と直結した体育レクリエーションの普及をはかるには、家庭をはじめ、市町村、職場等と密接に連絡をとり、手近かに指導に当ることの必要上、地方に左記の指導員を設置して普及にあたった。

- 指導員
- 三河 正 福島市教育委員会事務局
- 幕田昌司 梁川町教育委員会事務局
- 竹内芳明 郡山市教育委員会事務局
- 竹内 央 須賀川第一小学校
- 根本 巧 白河第一小学校
- 山本仁一 東白川郡近津中学校
- 小豆畑政 石川郡石川小学校
- 星 亀雄 田島町江川中学校
- 片桐善男 喜多方市教育委員会事務局
- 熊田武男 田村郡西田村教育委員会
- 大門セイ 磐城女子高等学校
- 宮原 清 双葉郡大畑村教育委員会

般、さらにはわが国土に影響するものであつてみれば、県における教育の中心ともなるべき、県教委事務局が、その状況を熟知しておくべきことは極めて当然なことであるから。

- 渡部和雄 中村第一小学校
- 伊藤 広 安達郡本宮町青田
- 藤沢 忠 会津若松市善久町
- 大川原善左久 河沼郡会津坂下町

#### 社会体育指導員研修会

- 期日 昭和三十一年五月二十六・七日
- 場所 会津若松市少年の家
- 内容 家庭における体育

#### 市町村における体育行事

#### 職場体育講習会

職場における体育レクリエーションは職場作業と間接的に見られ、職場の管理者も従業員も、これをないがしろにし、殆んど考えられていないというのが、現状なので作業にける疲労防止と能率と、健康と、発育の立場より職場を眺めると、こうした環境で、こうした仕事を、こうした手順で、こんな姿勢で、こんな身体を使い方をしているとどんな災害が

多いか、またどこが疲れるか、さらにこれを長年続けていると健康の上では、身体が発育の上ではどういふ変化がくるかを科学的に検討し、疲れが少く能率をあげ健康障害を起さないようにするために、作業環境を、働き方をどう改善合理化すればよいか等を研究討議し仕事そのものを健康化し明るい職場を、つくろうと郡山市教育委員会事務局、福島労働基準局と共催し、東京工業大学の塩谷宗雄助教を招聘し、安全衛生の面よりみたく上手な働き方について、郡山市外日東紡績富久山工場において開催し、今後の職場体育についての進み方を検討した。

#### 野外活動の奨励

#### 1 教育キャンプの開催

#### ① ねらい

青少年の共同生活訓練のモデルを示す目的で、教育キャンプを行い、これにより体得した奉仕、協同、友愛の精神にもとづいて、県内各地の青少年に呼びかけ、グループによるキャンプ活動を奨励し青少年活動の促進に寄与しようとするものである。それで本教育キャンプは、県内各高校生徒会幹部の募集を求め、主としてキャンプカウンセラー養成を目的として実施した。

#### ② キャンプ場

会津若松市湊町田面浜(猪苗代湖畔)

#### ③ 講師と指導組織

県教委事務局保健体育課長 鈴木勝枝  
主事 高崎 剛

- 福島大学体育学科 講師 佐藤克巳
- 県社会体育指導員 片桐善男
- 県社会体育指導員 藤沢 忠
- 指導組織
- プログラム係 片桐善男
- 調査係 藤沢 忠
- 庶務係 高崎 剛
- 記録係 佐藤克巳

#### 2 参加者

県内各高校生 四三名  
福島大学専政生 一五名

#### 3 日程

第1日	第2日	第3日	第4日	第5日
6.00	起床、炊事朝食	左 同	左 同	起床、炊事朝食
8.00	湖岸史中(田中)	教育キャンプ	学生生活について(討論会)	解散
11.00	湖跡(講師)	野外旅行	左 同	解散
13.00	昼食休憩	左 同	左 同	
15.00	唄の指導(課長)	唄の指導レクリエーション	唄の指導レクリエーション	
18.30	レクリエーション	休息	班対抗レクリエーション	
20.30	設営夕食	左 同	左 同	
	キャンプファイヤー	班別会議	レクリエーション	

## 二、各種スポーツ行事は如何に進め

たか。

#### 1 第九回福島県総合体育大会

夏季大会水泳(郡山市)漕艇(河沼郡)